SANYO

石油温風暖房機

品　番

CFF-L50G、CFF-L65G CFF-L77G

[密閉式石油ストーブ]

取扱説明書

このたびは、お買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、ご家族全員で安全に正しくお使いください。
お読みになった後、「保証書」とともに大切に保管し、必要なときにお役立てください。

もくじ

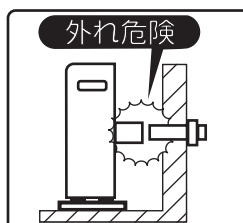
ご使用の前に

使いかた

お手入れ・その他

⚠危険

ガソリン厳禁
使用燃料:灯油

⚠警告　給排気筒を必ず点検してください

省エネで　守る環境　豊かな暮らし

必ず良質の灯油を使用してください。

安全のため必ずお守りください

安全に使用していただくための重要な項目ですので必ずお読みください。

●ここに示した事項は、安全に関する重大な内容の記載です。表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険（DANGER）**	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ **警告（WARNING）**	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意（CAUTION）**	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

	してはいけない「禁止」事項です。		絶対に**触れない**でください。
	しなければならない「指示」事項です。 必ず実施してください。		絶対に**分解・修理・改造はしない**でください。
	「注意」事項です。		必ず電源プラグをコンセントから**抜いて**ください。

⚠ 警 告（WARNING）

禁　止

ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

温風吹出口をふさがない

禁　止

衣類、紙などで温風吹出口（ルーバー）や空気取入口（フィルター）をふさがないでください。
火災の原因になります。

スプレー缶に注意

禁　止

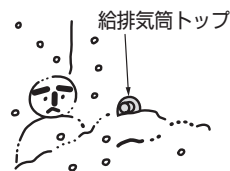
スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、温風の当たるところに放置しないでください。
熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発して、危険です。

給排気筒はずれ危険

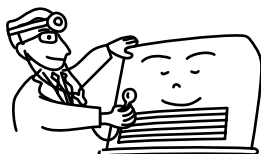
禁　止

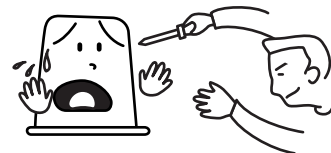
給排気筒（管・ホース）がはずれたまま使用しないでください。
はずれていると運転中に排気ガスが室内にもれて、危険です。

給排気筒トップ閉そく危険

禁　止

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。
ふさがれているときは、除雪してください。
閉そくしていると運転中に排気ガスが室内にもれて、危険です。

⚠ 警 告（WARNING）

定期点検の実施

定期的（2年に1回程度）に点検・整備を受けてください。
点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。
点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。

ご自身での据付け・移設工事の厳禁

お客さまご自身による工事は危険です。
据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
（ストーブを移設させる場合も同じです。）

⚠ 注 意（CAUTION）

温風に直接当たらない

温風に直接長時間当たらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

変質灯油禁止

禁　止

変質灯油、不純灯油（汚れた油、水の混じっている灯油など）を使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

高温部接触禁止

接触禁止
燃焼中や消火直後は、ルーバー、給排気筒トップに手などふれないように注意してください。
やけどのおそれがあります。

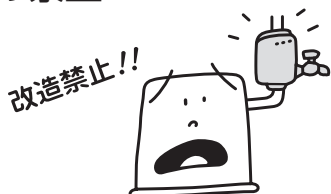
給排気筒付近の可燃物近接禁止

禁　止
給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれがあるものを置かないでください。
火災のおそれがあります。

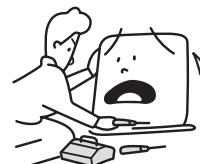
長時間使用しないときは電源プラグを抜く

電源プラグを　抜　く

長時間使用しないときやお手入れのときは、電源プラグを抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

改造使用の禁止

改造して、使用しないでください。
また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを、取り付けないでください。
火災や排気ガスが室内にもれる原因となり危険です。

分解修理の禁止

分解禁止
故障・破損したら使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

安全のため必ずお守りください

⚠ 注 意（CAUTION）

カーテン、可燃物近接禁止

禁　止

カーテン、障子などの燃えやすい物を近づけないでください。
火災が発生するおそれがあります。
可燃物との離隔距離については標準据付け例（27ページ）を参照してください。

指や異物を入れない

禁　止

温風吹出口や空気取入口などに指や異物を入れないでください。
けがや火災のおそれがあります。

給油時消火

実　施

給油は必ず消火してから行ってください。
火災のおそれがあります。

油もれ確認

実　施

油タンク、ゴム製送油管、接合部およびストーブ各部に油もれがないことを確認してください。
もれたまま使用すると、火災のおそれがあります。

腰をかけたり物をのせない

禁　止

やけどのおそれや、漏電、故障のおそれがあります。

引火物の近く

禁　止

ガソリン、ベンジン、プロパンなど引火性の危険物の近くでは使用しないでください。
火災のおそれがあります。

異常時使用禁止

禁　止

におい、ススの発生、炎の色など異常を感じたときは使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

電源プラグは確実に差し込む

実　施

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。
火災の原因になります。
ぬれた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

電源プラグのお手入れを

実　施

ときどきは、電源プラグを抜き、ほこりおよび金属物を除去してください。
ほこりなどがたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。

⚠ 注 意（CAUTION）

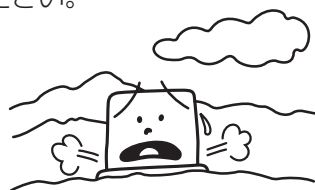
禁　止

電源コードを傷めない
電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
電源コードが断線し、火災や感電の原因になります。

人のいない場所では使用しない
動・植物を育成・栽培する温室や飼育室など人のいない場所では使用しないでください。
動・植物に悪影響をあたえることになります。

水のかかる場所では使用しない
プールサイド等の水のかかるおそれのある場所では使用しないでください。
漏電や故障のおそれがあります。

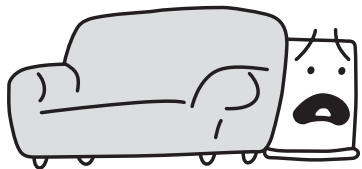
実　施

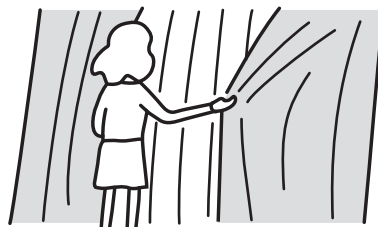
高地で使用するには
別紙「高地および延長給排気で使用する場合」を参照してください。

お願い（NOTICE）

●灯油の廃棄
灯油の廃棄処分は、灯油をお買いになった販売店にご相談ください。

このマークの中の数字は、説明のあるページです。

効果的に使用するには

●効果的に使用するには

温風の流れを妨げないでください。

●お部屋の保温をしましょう
カーテンを二重にして床までにすれば、
お部屋の熱を逃がさず、暖かさが保てます。

●手についた灯油は

サラダ油を少し手につけ、こすります。
その後、石けんで洗えばいやなにおいも落とせます。

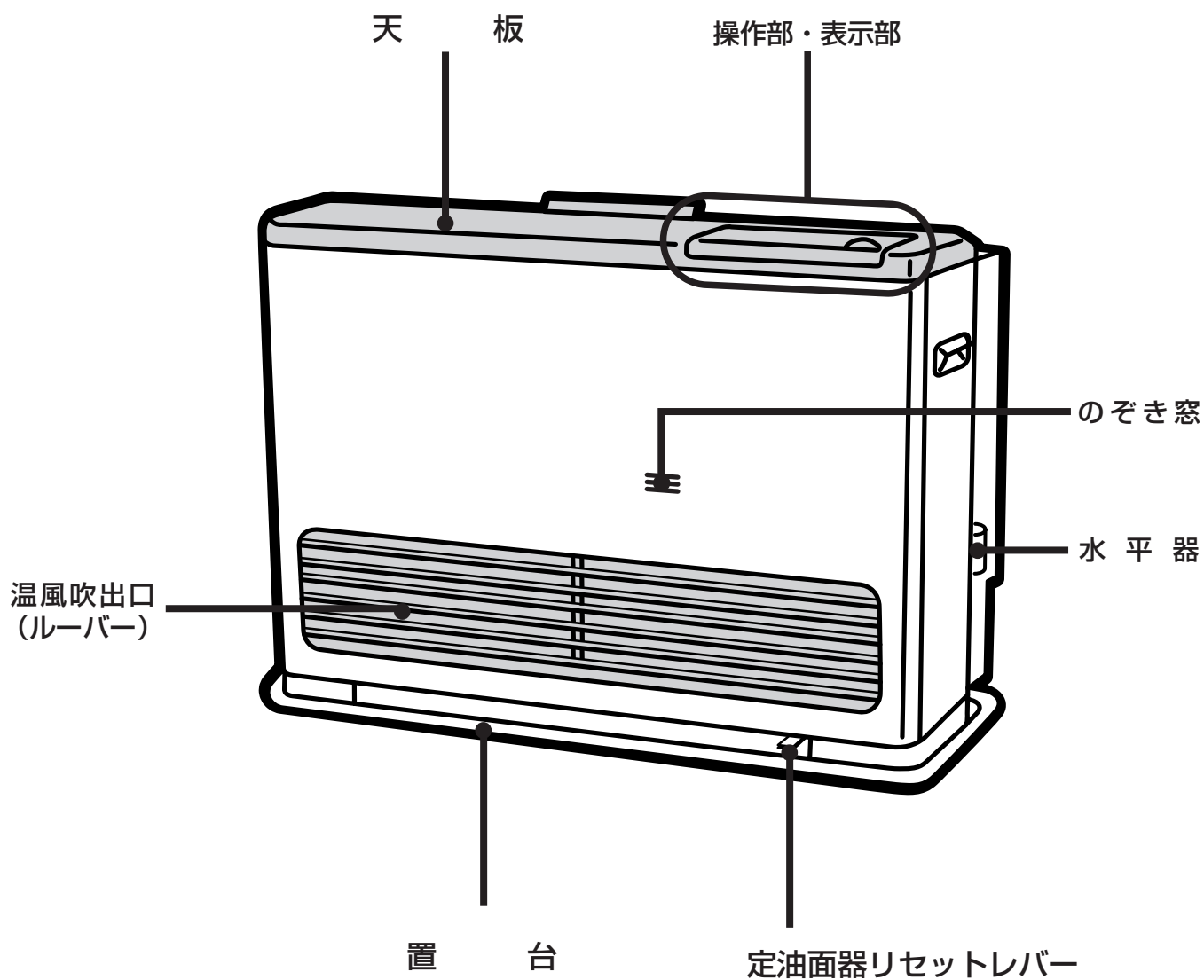
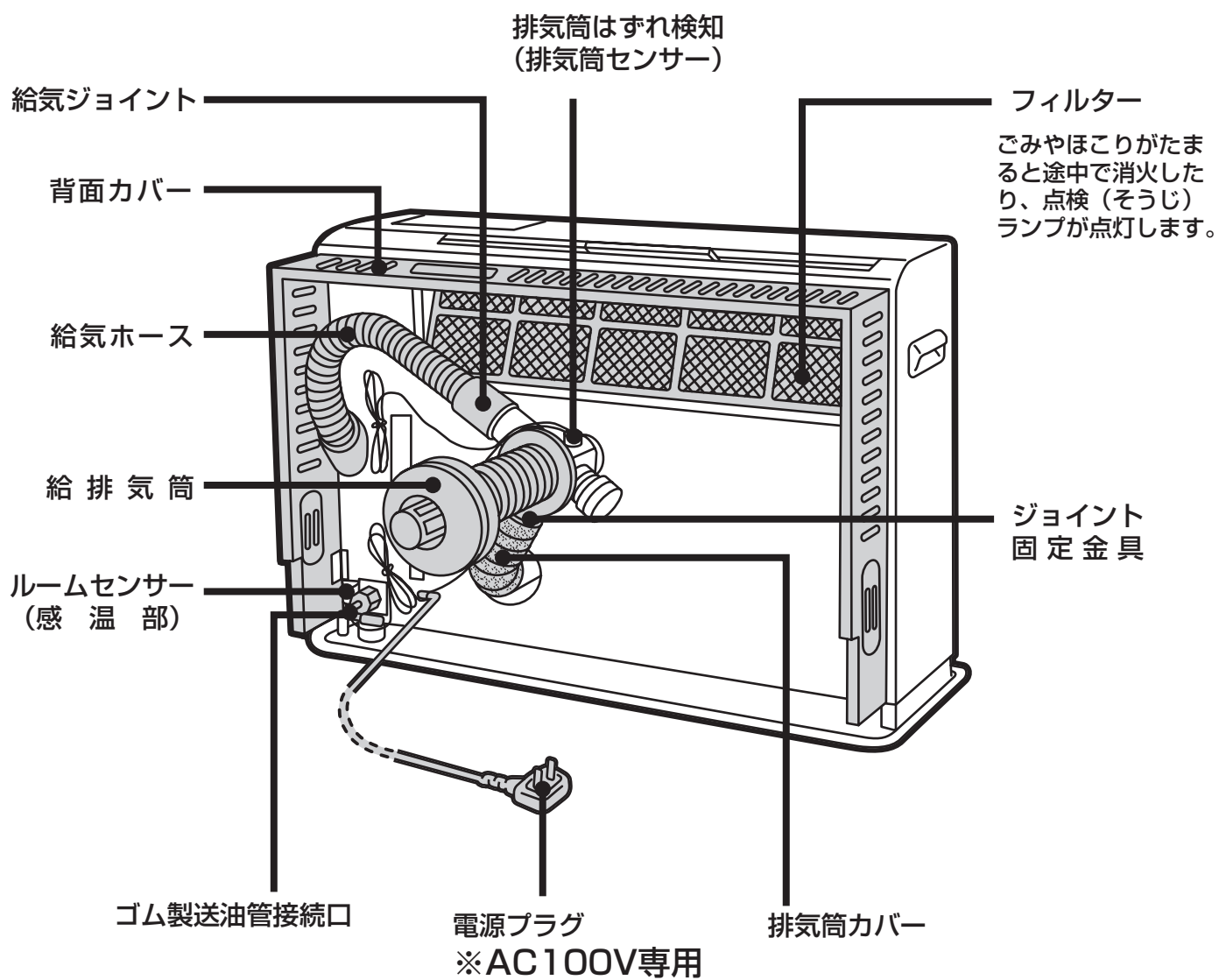
各部のなまえ

外観図

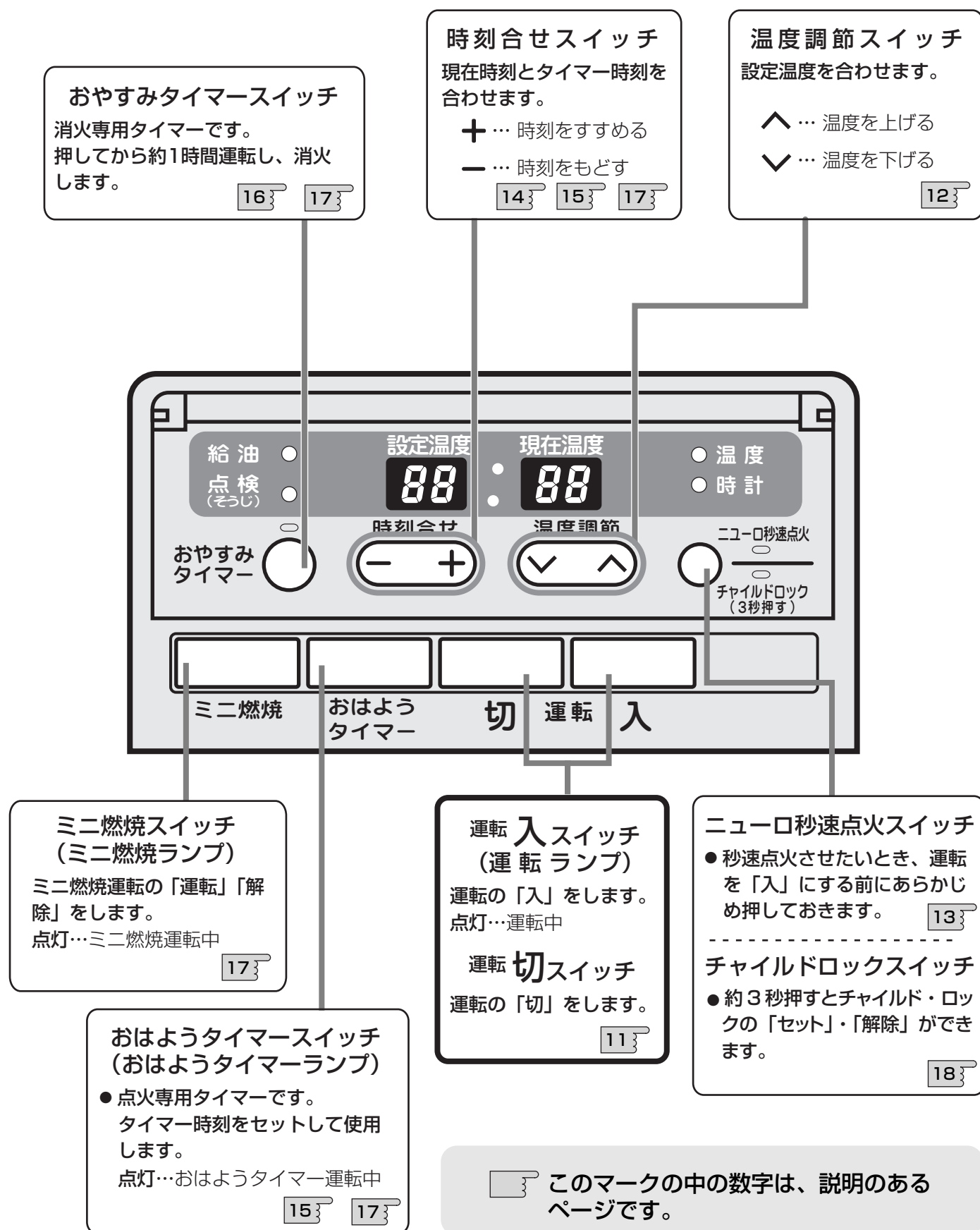
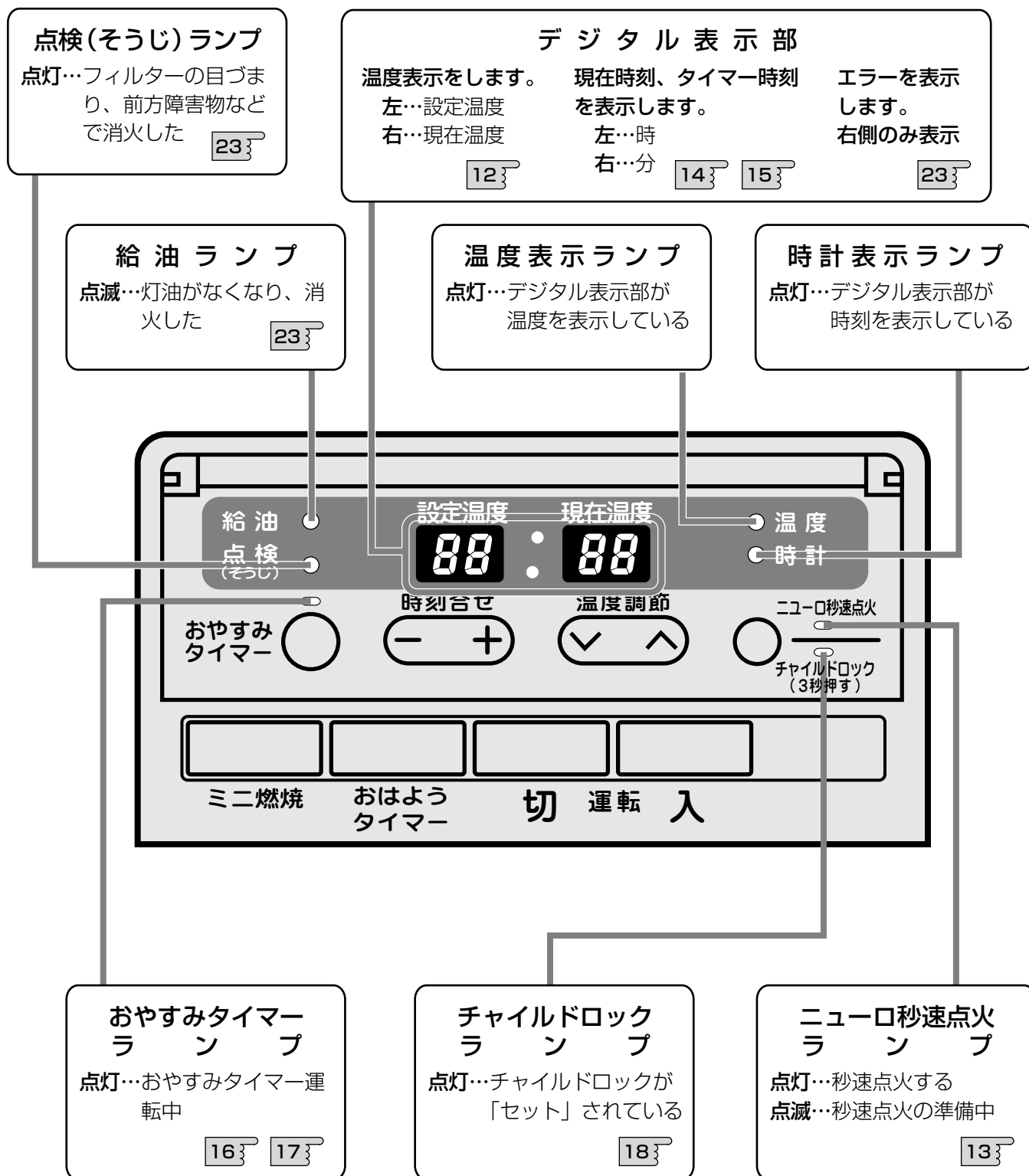
※わかりやすくするために配線類を省略した図です。

前面

背面

排気筒はずれ検知
（排気筒センサー）
給気ジョイント
フィルター
ごみやほこりがたまると途中で消火したり、点検（そうじ）ランプが点灯します。
背面カバー
給気ホース
給排気筒
ジョイント固定金具
ルームセンサー（感温部）
ゴム製送油管接続口
電源プラグ
※AC100V専用
排気筒カバー

各部のなまえ

操作部・表示部

※図は説明のため全部点灯した状態です。

このマークの中の数字は、説明のあるページです。

●バックアップ機能付き

電源プラグを抜いたり停電になったときの時間が約3分以内の場合、現在時刻、おはようタイマー時刻、設定温度、チャイルドロックを記憶しています。

ご使用前の準備

燃　料

⚠警告(WARNING)　ガソリン厳禁

燃料は必ず灯油（JIS 1号灯油）を使用してください。
ガソリン、変質灯油、不純灯油（よごれた灯油、水の混じった灯油）などは、絶対に使用しないでください。

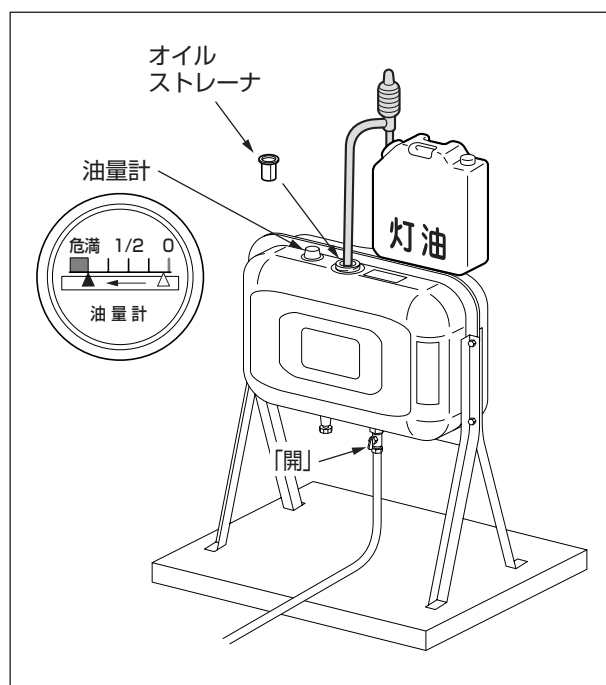
給　油

必ず消火してから行ってください。

1 油タンクへの給油

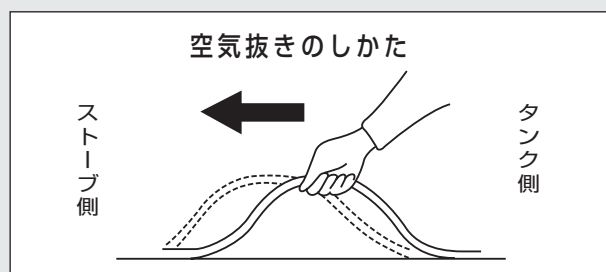
● 給油ポンプを使用してください。
※油タンク内へごみや水が入らないようにするため、給油口にオイルストレーナを必ず使用してください。
● 油量計を見ながら給油し、油量計が「満」になったらやめてください。
● 給油口ふたは確実にしめ、こぼれた灯油はきれいにふき取ってください。

2 送油バルブをひらく

● 油タンクの送油バルブを開いてください。

お願い！(NOTICE)

● 変質灯油や不純灯油を使用してしまったら…
油タンクの灯油を入れ替えてください。
※変質灯油や不純灯油が原因でアフターサービスを依頼されるときは、保証期間中でも有料となります。
● 灯油の保管容器は結露により水がたまることがあります。この水が油タンク内に入ると油タンク内面がさび、孔あきの原因になりますので給油のときに注意してください。
● 油タンクは空にしないように注意してください。使用時に油タンクを空にしますと配管途中に空気がたまることがあります。

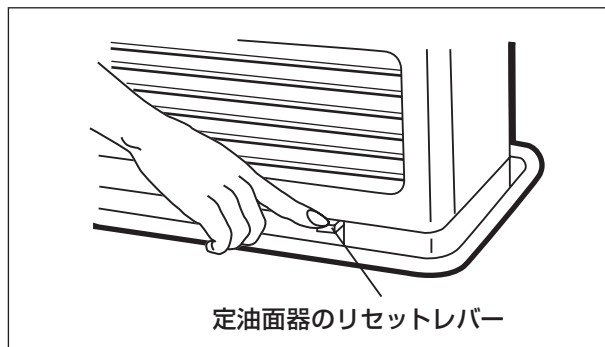
メモ　配管途中に空気がたまったとき
（油タンクに灯油があるのに「給油」ランプが点滅）

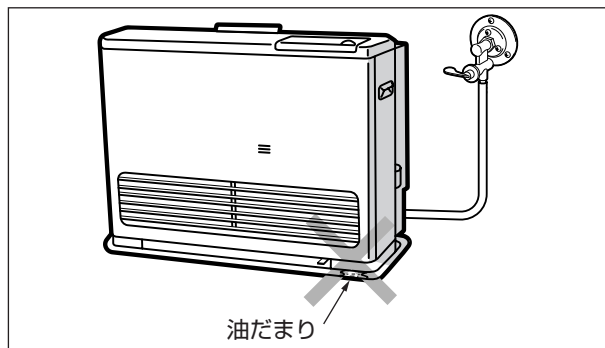
● 初めて使用するとき、または油タンクを空にしたときは、ゴム製送油管内に空気だまりができて、点火しないことがありますのでゴム製送油管を振って空気を抜いてください。

点火前の準備と確認

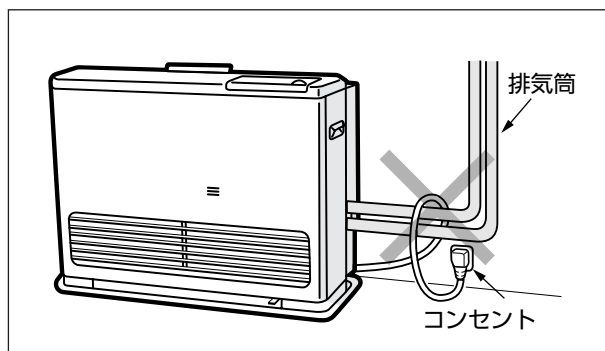
⚠注意(CAUTION) **周囲の確認**

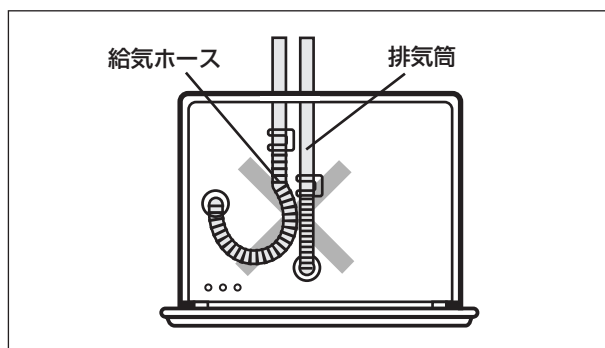
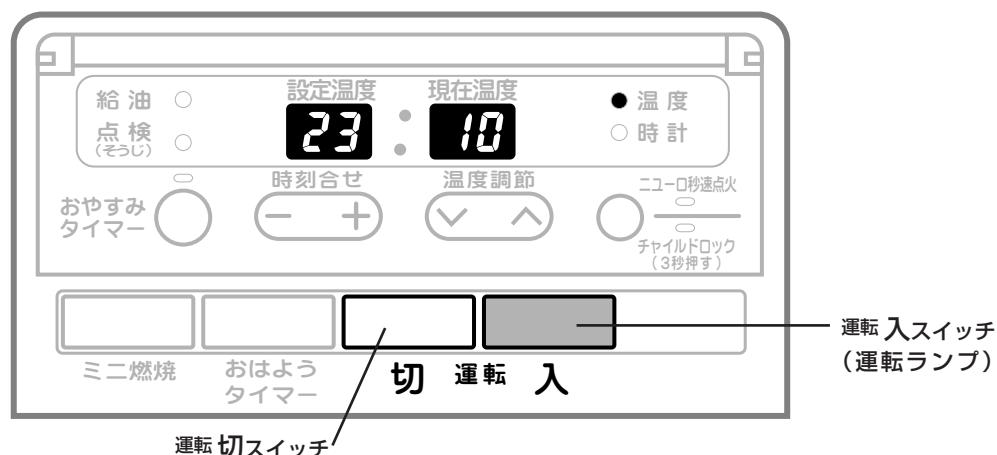
ストーブの上に花びんなど水のこぼれやすい物を置いたり、燃えやすい物を近づけていないか確認してください。

1 定油面器をセットする

●ストーブ前面右下部の定油面器のリセットレバーを軽く(2〜3回)押し下げてください。

2 油もれの確認

●油タンクおよびストーブ各部に油もれがないか確認してください。

3 電源の確認

●電源は家庭用交流100Vです。
必ず専用コンセントを使用してください。
●電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているか確認してください。
●電源コードがストーブの下敷きになっていたり、排気筒など高温部にふれていないか確認してください。

4 給排気筒はずれの確認

●背面カバーの孔からのぞいて給排気筒の接続部を点検してください。
(接続箇所がはずれていると、排気ガスがもれて非常に危険です)
●排気筒は高温ですので排気筒カバーを装着し、給気ホースがふれていないか確認してください。

点　火／消　火

点　火

運転 入 スイッチ を押す

● 運転ランプ（運転入スイッチ兼用）が点灯して約5分後に燃焼をはじめます。

メモ

● 購入直後やシーズン初めの最初の点火時には、1回で点火しないことがあります。
　運転スイッチを入れなおしてください。
● また、購入後初めての使用時には、においが出ることがありますが数分でなくなります。
（塗料やほこりが焼けるためです。）

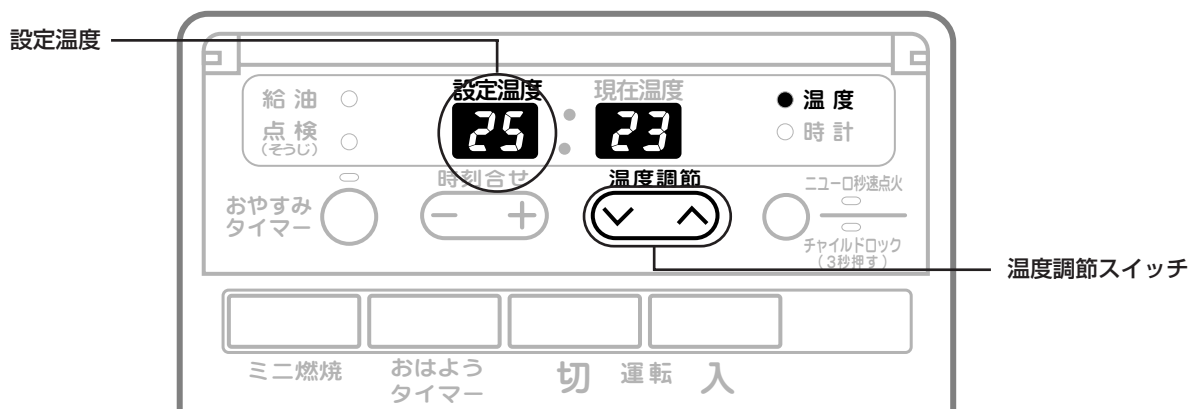
消　火

運転 切 スイッチ を押す

● すぐに消火し、運転ランプ（運転入スイッチ兼用）が消灯します。
● 消火後も本体が冷えるまで送風ファンが回り続けます。

お願い！（NOTICE）

● 電源プラグはコンセントから抜いて消火はしないでください。（緊急の場合をのぞく）
　ストーブ本体が熱くなり、何度も繰り返すと故障の原因になります。
● 長期間留守にするときは必ず電源プラグを抜いてください。また、外出するときは、必ず消火してください。

室温の調節

室温の調節

設定された温度で運転するように、ストーブが燃焼量を自動的に調節します。

このストーブは、設定温度があらかじめ23゜Cに設定されています。

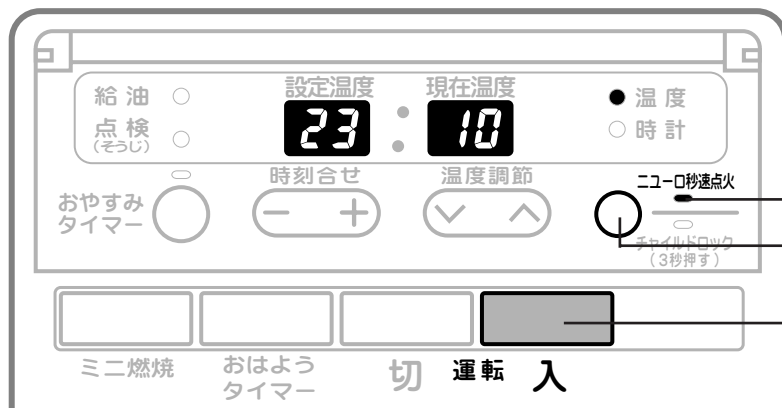
温度調節スイッチ の ∨ か ∧ を押す

● 「設定温度」を見ながら押してください。
　※温度調節スイッチを押し続けると連続して表示が変わります。
● お好みの温度が表示されますとセット完了です。

設定温度は、5〜35゜Cの間です。
現在温度が「設定温度」より2℃上がるか37℃になると消火し、「設定温度」より1℃下がると点火して室温調節します。

メモ

● 設定温度は室温（現在温度）がその温度に調節されるめやすです。現在温度は家屋の構造や設置条件によって部屋の温度計とは必ずしも一致しません。
● 温度調節がうまく行われないときは、ルームセンサーの感温部が移動可能（約2m）ですので、お買い上げの販売店にご相談のうえ、ストーブ本体の別の位置や他の適当な場所に移動してください。
● 電源プラグをコンセントから抜いたり停電した場合、設定温度は23゜Cにもどります。

ニューロ秒速点火

ニューロ秒速点火

早く点火させたいときにご利用ください。

あらかじめ

1 ニューロ秒速点火スイッチ を押しておく

● ニューロ秒速点火ランプが点滅します。
※点滅から点灯に変わると秒速点火することができます。

2 運転 入 スイッチ を押す

● 約15秒で点火します。

ニューロのはたらき（ニューロ秒速点火）
点火待機時のバーナー温度制御にニューロ技術を導入しました。
使用する時間帯などの生活パターンを学習して、バーナー温度をコントロールし、消費電力を抑えながら約15秒で点火できるようになりました。

※ニューロにより学習した時間帯（よく使用する時間）以外で使用すると点火に15秒以上かかることがあります。（ニューロ秒速点火ランプが点滅しています。）

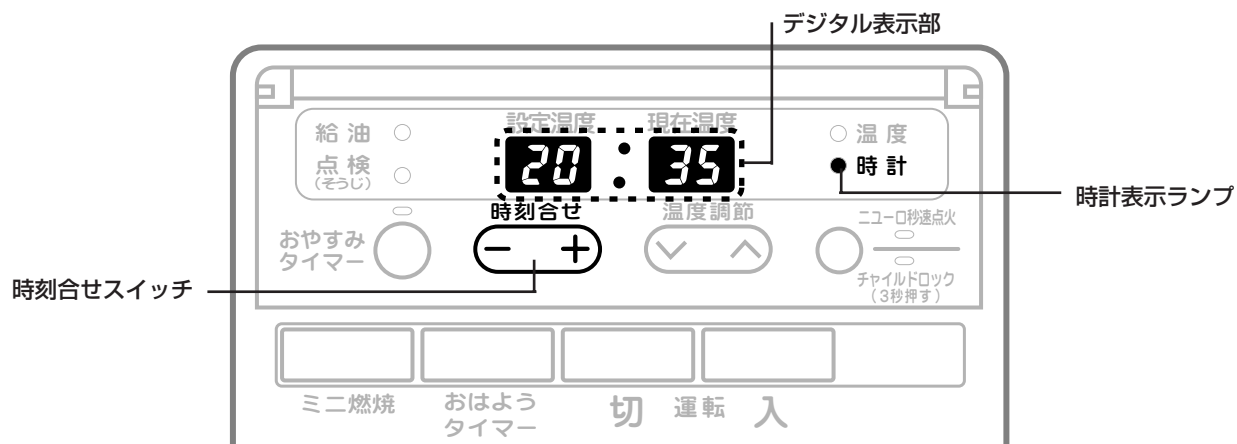
解除するとき

ニューロ秒速点火スイッチ を押す

● ニューロ秒速点火ランプが消灯します。

メモ

● ニューロ秒速点火スイッチを押しても最初は予熱に約5分かかります。
● ニューロ秒速点火がセットされているときは、平均120Wの消費電力がかかりますので長時間使用しないときはニューロ秒速点火を解除してください。
● ニューロ秒速点火の待機中はストーブの上面が予熱ヒーターにより暖かくなります。
また、金属部が伸び縮みして「ピン、ピン」と音がすることがありますが、どちらも異常ではありません。
● 時々、「カチッ」と音がして照明が一瞬暗くなることがあります。

現在時刻の合わせかた

現在時刻の合わせかた

（例）午後8時35分に合わせるとき

時計は24時間表示です。

1 時刻合せスイッチ の「－」か「＋」を押して時計表示にする

● デジタル表示部が時刻表示に変わり、時計表示ランプが点灯します。

2 時刻合せスイッチ の「－」か「＋」で現在時刻に合わせる

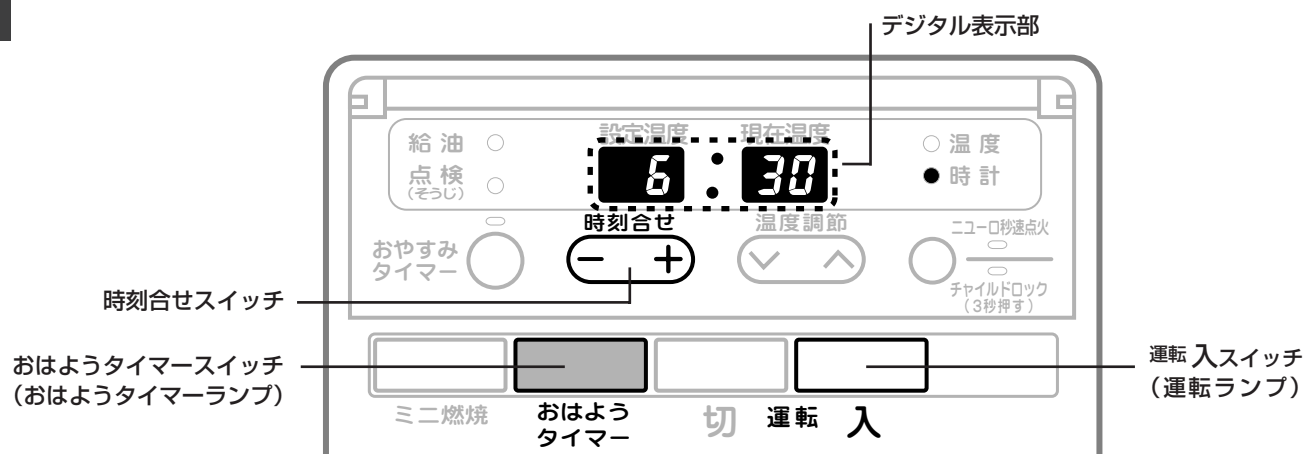
● 1回押すと、「--：--」から「12：00」に変わります。
● 時刻合せスイッチを1回押すごとに1分ずつ変わります。
● 押し続けると連続して変わります。
● 押し続けて、下1ケタが0になると10分単位で変わります。
● 下1ケタは1回ずつ押して合わせてください。

3 セット完了

● 時刻合せスイッチを押すと同時にセットされますので、時報に合わせて最後の数字を合わせるとセット完了です。

メモ

● 電源プラグをコンセントから抜いたり停電した場合で、時刻表示が「--：--」になっている場合は、現在時刻合わせをやりなおしてください。
● 現在時刻は、運転中でも停止中でも合わせられます。

おはようタイマー運転

おはようタイマー運転

※現在時刻合わせをしないと、おはようタイマー運転はできません。
(例)午前6時30分に運転を開始させたいとき

運転中に

1 おはようタイマースイッチ を押す

● おはようタイマーランプが点灯し、運転ランプは消灯します。
(デジタル表示部は「6：00」と表示します。)
※おはようタイマー時刻はあらかじめ午前「6：00」にセットされています。

2 時刻合せスイッチ の「－」か「＋」でタイマー時刻をセットする

● 時刻合せスイッチを1回押すごとに1分ずつ変わります。
● 押し続けると連続して変わります。
● 押し続けて、下1ケタが0になると10分単位で変わります。

3 セット完了

●セットした時刻に運転をはじめます。(運転ランプ点灯)

一度セットすると

おはようタイマー時刻は記憶されますので

1 の操作で

おはようタイマー運転ができます。

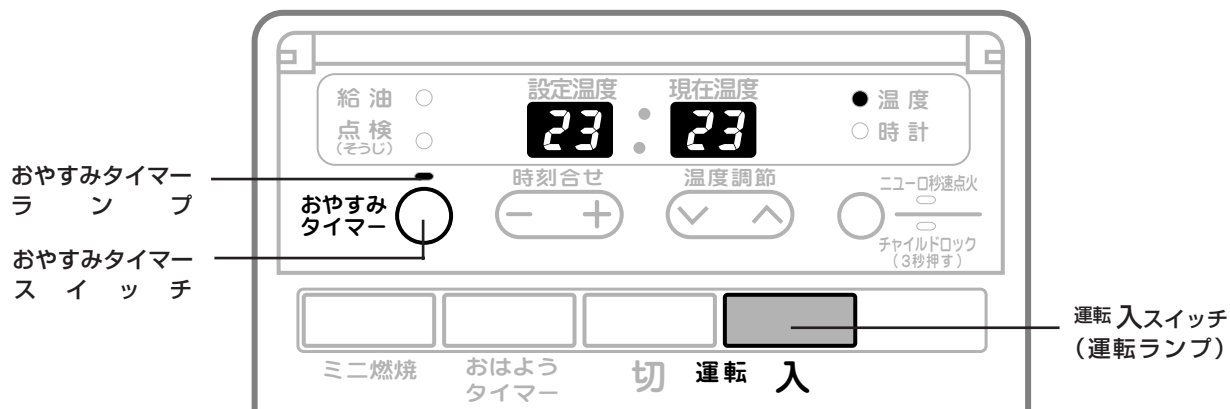
おはようタイマー運転を中止するとき

おはようタイマースイッチ を押すか、運転 切スイッチ を押す

おはようタイマーセット後に停電や地震があった場合

停電のとき 現在時刻、タイマー時刻は解除されます。
現在時刻、タイマー時刻のセットからやりなおしてください。

地震のとき (デジタル表示部にE4と表示されます。)
運転 切スイッチを押した後、運転 入スイッチを押してから、おはようタイマースイッチを押してください。

おやすみタイマー運転

おやすみタイマー運転

約1時間燃焼し、自動消火します。おやすみのときなどにご利用ください。

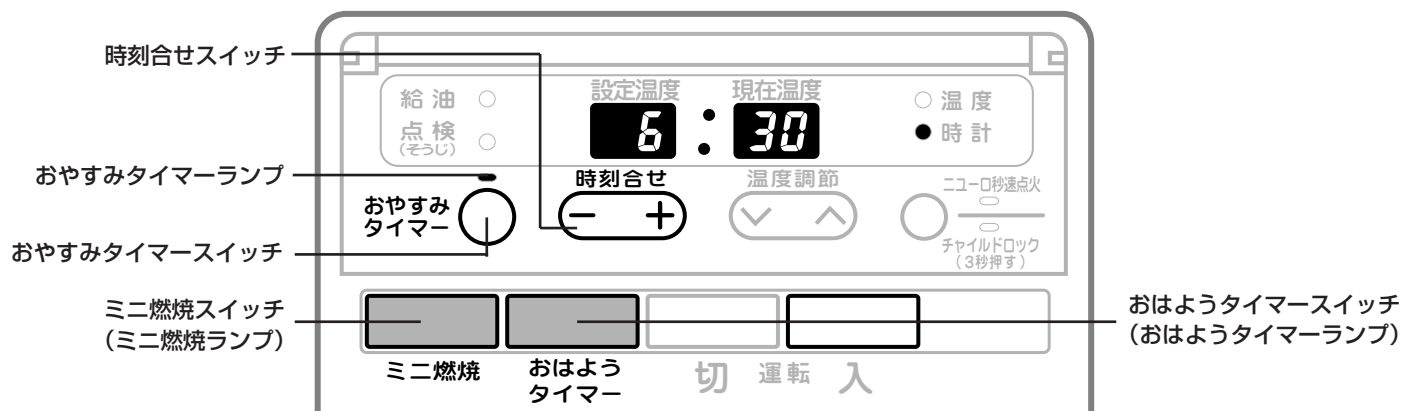
運転中に

おやすみタイマースイッチ を押す

- おやすみタイマーランプが点灯します。
- おやすみタイマーランプが点灯後、約1時間燃焼し、自動消火します。
- 消火後、運転ランプは消灯し、おやすみタイマーランプは点灯し続けます。

自動消火後、再度運転したいとき

運転 切スイッチ を押してから 運転 入スイッチ を押す、またはおやすみタイマースイッチを押す

おやすみ・おはようの組合わせ運転／ミニ燃焼

おやすみ・おはようの組合わせ運転

現在時刻 14 をセットする。

運転中に

1 おやすみタイマースイッチ を押す

- おやすみタイマーランプが点灯します。
- 約1時間燃焼してから、自動消火します。

2 おはようタイマースイッチ を押す

- おはようタイマーランプが点灯します。

時刻合せスイッチ の「－」か「＋」でタイマー時刻をセットする

- セットした時刻に運転をはじめます。

タイマー運転を中止するとき

おはようタイマー運転を中止する ▶ おはようタイマースイッチを押す
おやすみタイマー運転を中止する ▶ おやすみタイマースイッチを押す

ミニ燃焼

小さな燃焼量で継続運転させたいとき利用してください。

運転中に

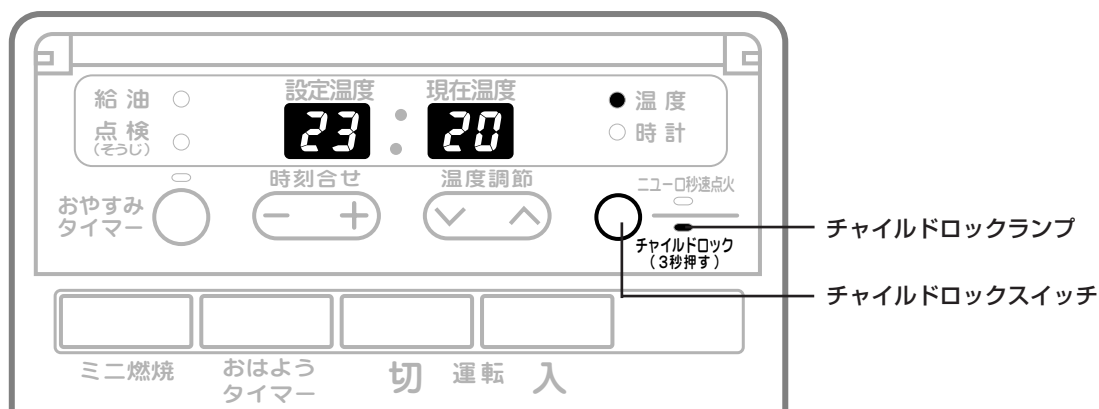
ミニ燃焼スイッチ を押す

- ミニ燃焼ランプが点灯します。

解除するとき

ミニ燃焼スイッチ を押す

- ミニ燃焼ランプが消灯します。

ミニ燃焼のはたらき
現在温度が「設定温度」より5℃上がるか37℃になると自動的に消火し、「設定温度」より1℃下がると小さい燃焼量で燃焼します。

チャイルドロック

チャイルドロック

小さなお子さまのいたずらや、誤操作をふせぎます。

チャイルドロックスイッチ を約3秒押す

- チャイルドロックランプが点灯します。
（最初ニューロ秒速点火ランプが点灯しますが、押しつづけると、チャイルドロックランプが点灯します。）

運転スイッチ「入」のとき
運転「切」はできますがその他の操作はできません。
運転スイッチ「切」のとき
チャイルドロックの解除以外のすべての操作はできません。

解除するとき

チャイルドロックスイッチ を約3秒押す

- チャイルドロックランプが消灯します。

メモ

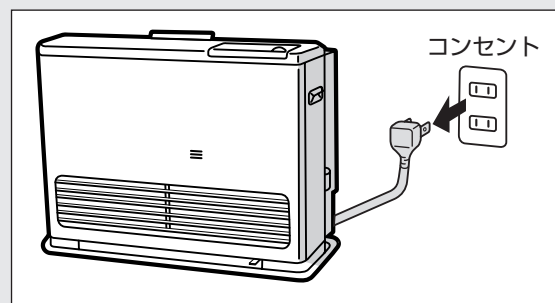
- エラー表示が出たときは、運転 切スイッチ を押してから、チャイルドロックを解除し 23 の処置をしてください。

お手入れのしかた

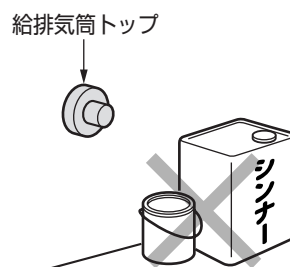
⚠ 警告(WARNING)　**はずれ危険**

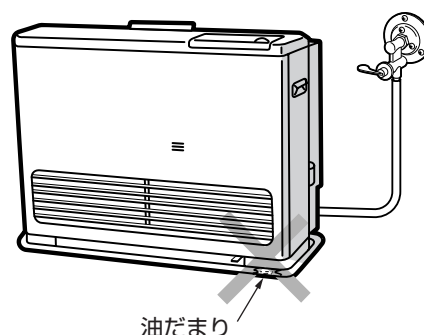
使用中、においがしたり目がしみる場合は、排気筒やパッキン部の接続部から排気ガスがもれていることが考えられ危険です。給排気筒（管・ホース）が正しく接続されているか点検後、お買い上げの販売店、またはもよりの「お客さまご相談窓口」（別紙）にご相談ください。

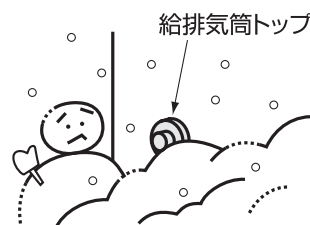
⚠ 注意(CAUTION)　**電源プラグを抜いて**

お手入れは、運転スイッチを「切」にし、ストーブが完全に冷えてから電源プラグを抜いて行ってください。
また、電源プラグはぬれた手で抜き差しをしないでください。

使用のたびに

周囲の可燃物

● ストーブや排気筒および給排気筒トップの周囲に燃えやすい物がないか常に確認してください。

油もれ、油のたまり、油のにじみ

● 置台、ストーブ、ゴム製送油管などに油もれ、油のたまり、油のにじみなどがないか点検してください。
※布などでふき取っても、同じところに油もれなどができるときは使用するのをやめ、お買い上げの販売店、またはもよりの「お客さまご相談窓口」（別紙）にご相談ください。

給排気筒トップの点検

● 雪などで給排気筒トップがふさがれていないか点検してください。

⚠注意(CAUTION) 電源プラグのお手入れを

電源プラグの先端部分の間にほこりおよび金属物がたまっていたら掃除をしてください。
※発火のおそれがあります。
（トラッキング現象といいます。）

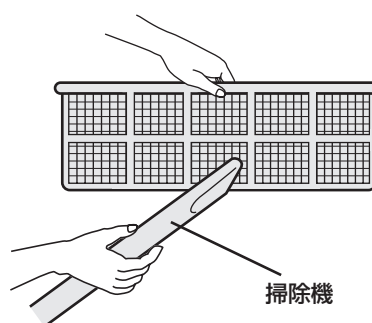
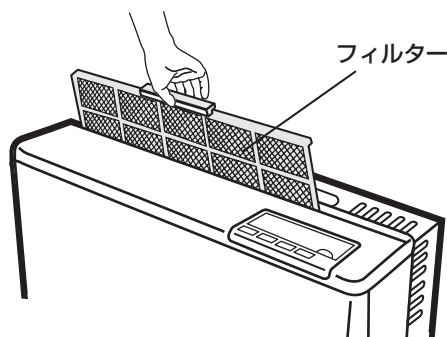
月に1～2回

フィルターの掃除

ごみ、ほこりが付着するとストーブ本体内が過熱し、過熱防止装置がはたらき、消火することがあります。
点検（そうじ）ランプが点灯します。 23

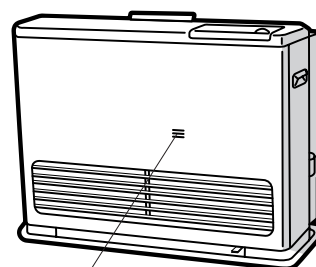
- 月に2回以上行ってください。
  フィルターを引き出し、掃除機のすきまノズルなどできれいに掃除してください。
  （ほこりが多い部屋では特に注意してください）

お願い！(NOTICE)

- フィルターをストーブにもどすときは「前後」を確かめてください。

ほこり、よごれのそうじ

- ストーブ本体のよごれは柔らかい布でふくか、特によごれのひどいときは薄い中性洗剤をしみこませた布でふいてください。
  ※中性洗剤以外（アルカリ性・酸性洗剤）は、使用しないでください。さびの原因になります。
- 温風吹出口（ルーバー）についたほこりは掃除機で取り除いてください。

のぞき窓の点検

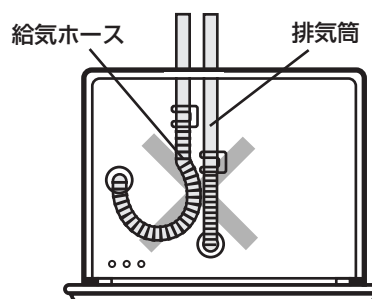
- のぞき窓にススが付着して透明度が悪くなったときは、燃焼の異常が考えられますので、お買い上げの販売店、またはもよりの「お客さまご相談窓口」（別紙）にご相談ください。

お手入れのしかた

年に1〜2回

排気筒の点検

● 排気筒とその周囲にごみやススがついていないか点検してください。
● 排気筒の接続部のゆるみ、腐食、固定状態を点検して異常があればなおしてください。
（排気ガスが室内にもれた場合、一酸化炭素が発生して危険です。）

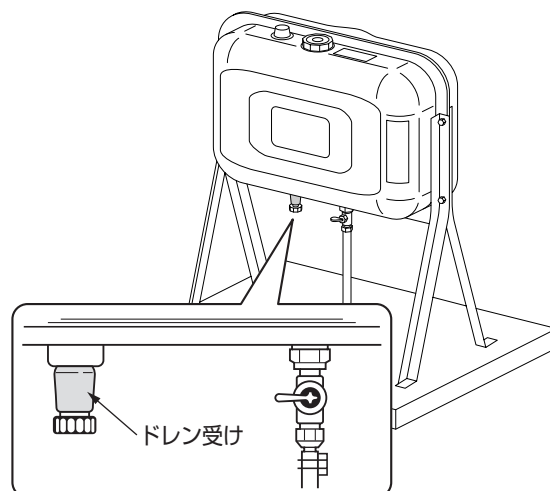
給気ホースの点検

● 給気ホースの損傷や排気筒への接触がないことを点検してください。
● 給気ホースの孔にごみ、雨水やほこり、くもの巣などが付着していないことを点検してください。

ゴム製送油管の点検・めやす

● ゴム製送油管にひび割れや、急な曲がり、U字になっている部分がないか点検してください。
● ゴム製送油管は経年劣化します。3年に1回は新しいものに交換してください。

油タンク内の水や異物

● 油タンク内に水やごみが入りますと、ドレン受けにたまります。
このとき、水と油の間にはっきり境界線ができますのでドレン受けから排出してください。

メモ

● 油タンクに水がたまって消火した場合、定油面器にも水がたまっている可能性があります。
● 定油面器のお手入れはお買い上げの販売店、またはもよりの「お客さまご相談窓口」（別紙）、にご相談ください。

故障かな？と思ったら

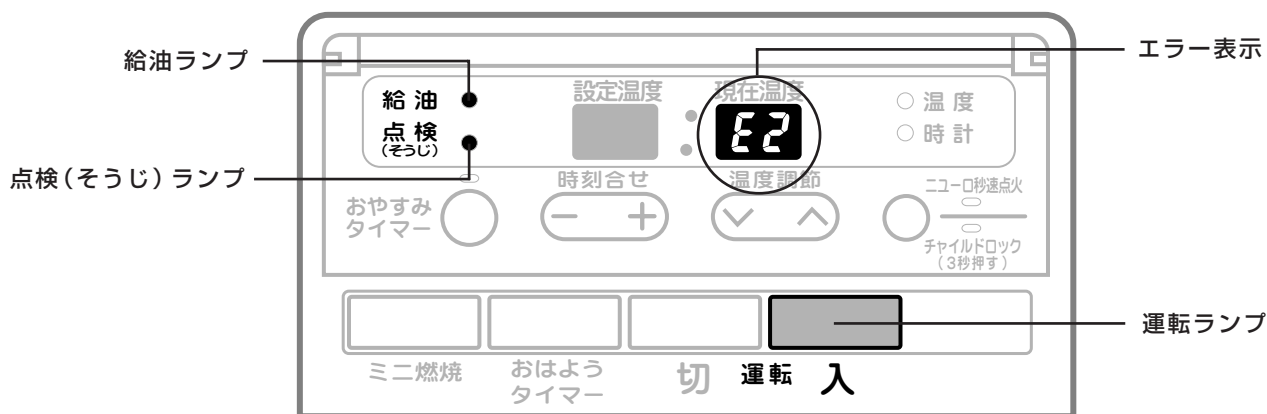
次のような状態は故障ではありません

修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

症状			原因
点火時・消火時	初めて使用するとき（購入直後、シーズン初め）	煙やにおいが出る。	●塗料やほこりなどが焼けるためです。10〜15分程度、窓を開けて換気してください。
		電磁ポンプの振動音が大きかったり、異常燃焼する。	●電磁ポンプ内に空気が入っているためです。空気が抜ければ正常になります。
		●点火しない。 ●点火➡消火を繰り返し途中消火する。	●灯油が正常に供給されていないためです。油タンクの送油バルブなどが「開」になっているか、定油面器がセットされているかチェックし、ゴム製送油管を空気抜きしたうえで運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。
	「ピン、ピン」と音がする。		●金属部が伸び縮みする音です。異常ではありません。
	消火後すぐに再点火しない。		●消火後すぐには点火しないことがあります。バーナーの予熱中ですので1〜2分待ってください。
燃焼時	熱交換器の一部がうすく赤熱する。		●燃焼時に赤熱するときがありますが、「点火しない」「途中消火する」などの現象がなければ異常ではありません。
	燃焼中、炎がオレンジ色に輝く。		●青炎が最良の燃焼状態ですが、炎色反応により炎がオレンジ色に輝くときがあります。 ●海岸に近いところなど空気中に塩分の多い場合。 ●空気中にちりやほこりの多い場合。 ●空気中に水分が多い場合。
タイマー運転時	おはようタイマー運転がセットできない。		●現在時刻がセットされていない。（- - : - - 表示）
	おはようタイマー運転をセットしても運転しない。		●停電や地震、強い衝撃がありましたか？確認して、タイマー運転のセットをしなおしてください。 ●時刻をまちがえてセットしていませんか？ 14
その他	油タンクに灯油が入っているのに「給油」ランプが点滅し、燃焼しない。		●油タンクにごみや水がつまっていませんか？掃除をしてください。 21 ●ドレン受けに水がたまっていませんか？水抜きをしてください。
	運転していないのにストーブの上面が少し熱くなる。		●ニューロ秒速点火の待機中です。使用しないときは解除してください。 13

故障かな？と思ったら

この表で調べてください

故障・異常の場合は安全装置が働いてエラー表示とランプでお知らせします。

エラー表示・ランプ部	原　　因　（作動した安全装置）
E0	● 運転「入」スイッチを5秒以上押し続けた。
E1	● 点火ミスしたり燃焼状態が異常になった。（点火安全装置）
E2	● 燃焼状態が異常になり途中消火した。（燃焼制御装置） ● 水が混入した。（燃焼制御装置）
E4	● 地震 （震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けた。（対震自動消火装置）
E5	● 電源プラグが抜けた。 ● 停電した。（停電安全装置）
E7 点検（そうじ）ランプが点灯	● ストーブが異常高温になった。（過熱防止装置） ● フィルターにごみ、ほこりが付着している。（過熱防止装置） ● ストーブの前に障害物があり、高温になった。（過熱防止装置）
A1	● 排気筒センサーが作動した。（排気筒センサー）

運転ランプが点灯しない	● 電源プラグが抜けている。 ● 停電している。（停電安全装置）
給油ランプが点滅する	● 灯油がなくなった。 ● 油タンク、定油面器にごみや水が入っている。

●処置をしてもなおらないとき
●下表以外のエラー表示になったとき

電源プラグをいったん抜き、再度電源プラグを差し込んでから、運転「入」スイッチを押します。

それでも同じ症状が出るときは電源プラグを抜き、お買い上げの販売店、またはもよりの「お客さまご相談窓口」(別紙) にご連絡ください。
※電源プラグを抜いたとき、プラグの刃を上向きのままおかないでください。踏むとけがをします。

処　置　方　法

処置方法	参照
● 運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。	
● 運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。	
● 運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。それでも運転しない場合は、水の混入が考えられますので販売店にご相談ください。	21
● 周囲の可燃物、ストーブの損傷、油もれ、給排気筒のはずれなど異常がないことを確認してから運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。	
● 電源プラグをコンセントに差し込む。 ● 再通電後、運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。	
● ストーブが冷えてからフィルターを掃除し、運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。 ● 前方障害物を取り除き、運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。	20 27
● 排気筒の点検・清掃を行う。	21

処置方法	参照
● 電源プラグをコンセントに差し込む。 ● 再通電後、運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。	
● 給油後、運転「切」スイッチを押してから運転「入」スイッチを押す。 ● 油配管の落差、空気だまりをなおす。 ● 定油面器のリセットボタンを軽く2〜3回押し下げる。 ● 油タンクの水抜き・掃除をし、定油面器に水がたまっていると考えられるときは販売店にご相談ください。	9 10 21

保　管（長期間使用しないとき）

1 電源プラグを抜く

2 油タンクの灯油を抜く
- 水やごみを残したまま保管しますと、タンク内面のさびや、孔あきの原因になります。

3 本体の掃除をする　20

4 各部分を点検し、具合の悪いところは修理を依頼する

5 本体にカバーをかける
- できるだけ据付けしたまま保管してください。
- 取りはずした場合は、湿気やほこりの少ないところに保管してください。
- 次に据付けを行うときは必ず工事専門店に依頼してください。

定期点検

2シーズンに1回の定期点検のおすすめ

- ストーブは年月の経過により構成部品が劣化します。ご使用条件や運転状況によりストーブの性能に影響をおよぼし、機能をじゅうぶんに発揮できなくなることがありますので、2シーズンに1回の定期点検を実施してください。
  定期点検のご相談は、お買い上げの販売店、またはもよりの「お客さまご相談窓口」（別紙）、修理資格者［（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など］のいる店までお問い合わせください。
  （点検費用など詳しいことは販売店にご相談ください）

消耗・劣化しやすい部品

長期間の使用で消耗・劣化しやすい部品	モーター軸受け、点火プラグ、フレームロッド、ゴム製送油管、排気筒接続部のOリング(JIS　B　2401　4種D　P34)、各種パッキン、電気回路の各接点、電流ヒューズ
特殊環境（大気汚染・塩害・温泉害など）で劣化しやすい部品	排気筒、給排気筒、電気回路の各接点
変質・不純灯油の使用で劣化しやすい部品	オイルストレーナ、電磁ポンプ、フレームロッド

部品交換について

● 補修部品はサンヨー石油温風暖房機「CFF-L50G、L65G、L77G」の純正部品を使用してください。
専用以外の部品を使用して万一故障や事故が発生した場合、弊社は責任を負いかねます。
部品交換の際は、お買い上げの販売店、またはもよりの「お客さまご相談窓口」（別紙）、修理資格者［（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など］のいる店に依頼してください。

故障したものは絶対に使用しないでください。

仕　様

型式の呼び		CFF−L50G	CFF−L65G	CFF−L77G
種類		回転霧化式・強制給排気形・強制対流形		
点火方式		高圧放電点火式		
使用燃料		灯油（JIS 1号灯油）		
燃料消費量	最大	0.559L/h	0.729L/h	0.864L/h
	最小	0.255L/h	0.333L/h	0.393L/h
熱効率	最大	87.0%	86.6%	
	最小	87.5%		86.6%
暖房出力	最大	5.00kW	6.50kW	7.70kW
	最小	2.30kW	3.00kW	3.50kW
油タンク容量	別置	90L　標準OT-R90A（別売）		
暖房のめやす	温暖地	木造13畳・コンクリート18畳	木造17畳・コンクリート23畳	木造20畳・コンクリート27畳
	寒冷地	木造13畳・コンクリート21畳	木造17畳・コンクリート27畳	木造20畳・コンクリート32畳
外形寸法		高さ 500mm・幅 760mm・奥行 305mm（置台・背面カバーを含む）		
質量		26kg		
電源電圧および周波数		単相100V 50/60Hz		
電流ヒューズ		125V 10A		
定格消費電力		最大消費電力（点火時） 580/580W （ヒーター容量 550W） 最大燃焼時 42/47W 最小燃焼時 20/20W 運転スイッチ「切」時 6/6W	最大消費電力（点火時） 580/580W （ヒーター容量 550W） 最大燃焼時 51/55W 最小燃焼時 24/25W 運転スイッチ「切」時 6/6W	最大消費電力（点火時） 580/580W （ヒーター容量 550W） 最大燃焼時 60/65W 最小燃焼時 26/27W 運転スイッチ「切」時 6/6W
給排気筒形式		CFK-T66C		CFK-T81C
給排気筒呼び径		D34		
給排気筒壁貫通部穴径		直径65mm（壁厚90〜300mm）		直径80mm（壁厚90〜300mm）
延長配管		3m 3曲がり以内（ストーブの出口の曲がり含む）		
排気温度		強260℃以下		
安全装置		対震自動消火装置、過熱防止装置、点火安全装置、燃焼制御装置、停電安全装置		
その他の装置		排気筒センサー		
付属品		置台、給排気筒セット、傾斜フランジセット、スリーブ、スペーサー、ゴム製送油管（約2.5m）、工事説明書（裏面型紙）、金具ビスセット、取扱説明書		

● 段ボール箱に表示してある型式末尾の（　）内の記号は、商品の色柄を表しています。
適室算定は（社団法人）日本ガス石油機器工業会算定基準によるものです。

据付け・移設

据付け・移設工事は販売店に依頼する

据付けや移設工事は販売店または据付業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据付け場所の選定

ストーブの据付けは別紙の工事説明書に従ってください。
その他にも各種の条件がありますので確認してください。

1 火災予防条例

● 各地の火災予防条例に従ってください。

2 電源について

● 電源は専用コンセント（家庭用AC100V）を使用してください。

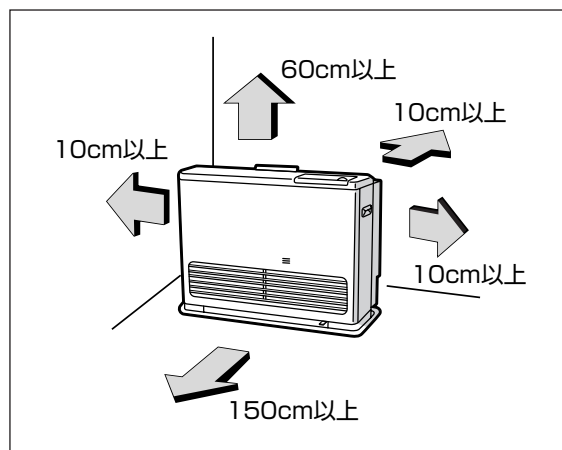
3 積雪の多い地方の注意

● 給排気筒トップ周辺は常に新鮮な空気が必要です。（閉空間を作らないこと）
● 積雪の多い地方では、給排気筒の回りが雪でふさがれないように注意してください。また、風がよどむような場所では、排気ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがありますので注意してください。

4 集合煙突の禁止

● 集合煙突を使用しての給排気工事はできませんので絶対におやめください。

標準据付け例

ストーブと可燃物との基準寸法です。
● ストーブは障害物や可燃物（木壁、合板壁、ふすまなど）から右図に示す距離をとってください。
特にカーテンなどがストーブ、排気筒にふれないようにしてください。

火災の原因になります

※前方に障害物があると、温風でストーブが高温になり、プラスチック部分が変形したり、故障することがあります。
● 耐火構造であっても、マントルピースなどに設置する時は、上図の距離をとってください。
● マントルピースなどに設置する時は、ストーブ前面が壁面より内側に入らないようにしてください。

お願い！（NOTICE）　**熱に弱い床面では使用しない**

● 新しい畳、熱に弱いカーペットや床面で使用すると変色したり、床面のそりやひび割れの原因になります。

据付け後の確認

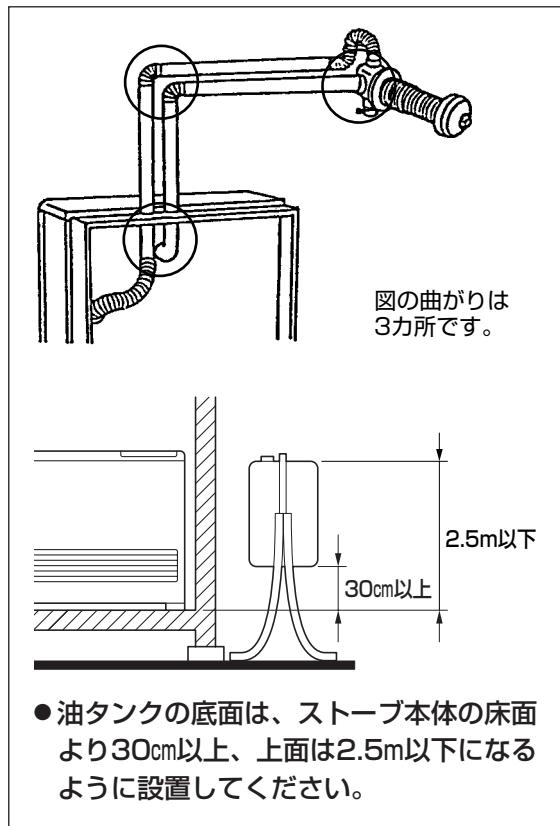
据付けが終わりましたら、もう一度工事説明書の「安全のため必ずお守りください」に従って据付けられているか、確認してください。

1
- ストーブはストーブ固定金具で壁に固定されていますか。
- ストーブは丈夫で水平な床面に据付けられ、可燃物との距離がじゅうぶんにありますか。
  ※温風吹出口の前方は必ず150cm以上あけてください。
  《火災およびストーブの故障の原因になります。》

2
- 給排気筒の基準寸法を守っていますか。
- 給排気筒を延長する場合は、3m3曲がり以下になっていますか。

3
- 油タンクの据付け基準寸法を守っていますか。
- 油タンクやゴム製送油管から油もれがないですか。
  （付属品のゴム製送油管は屋内専用ですので屋外使用はしないでください）

4
- コンセントの位置は歩行者が電源コードを引っ掛けやすい位置にないですか。

- 油タンクの底面は、ストーブ本体の床面より30cm以上、上面は2.5m以下になるように設置してください。

試運転

試運転は、販売店または工事店と一緒に必ず行ってください。

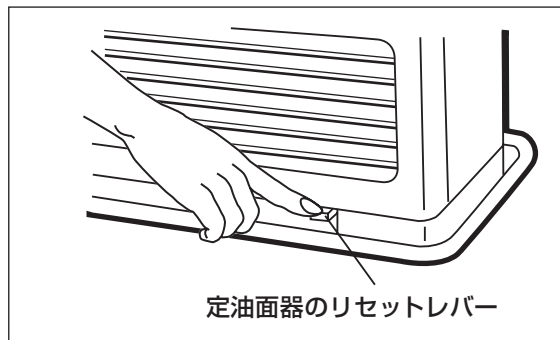
1 運転準備
- 油タンクに灯油を入れ、油タンクおよびストーブ各部に油もれがないですか。
- 電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていますか。
- ストーブ前面下部の定油面器のリセットレバーを軽く（2～3回）押し下げてください。

定油面器のリセットレバー

2 点　火
- 運転「入」スイッチを押してください。
  運転ランプが点灯し、約5分後自動的に燃焼をはじめます。
- 点火ミスをしたときは運転「切」スイッチを押してから、運転「入」スイッチを押してください。
  再び点火動作をはじめます。

正常運転のめやす

- 青炎または青炎の中に赤火が少し入る燃焼が正常ですので、確認してください。

3 消　火
- 運転「切」スイッチを押してください。
  運転ランプが消灯し、消火します。

アフターサービス

保証書について

添付しております保証書は販売店でお渡ししますから、所定事項の記入および記載内容をご確認のうえ保存してください。

保証期間はお買い上げの日より1年間（燃焼部分は3年間）です。

- 保証書の記載内容によりお買い上げの販売店が修理いたします。その他の詳細は保証書をご覧ください。
- 保証期間が過ぎてからの修理については、お買い上げの販売店、またはもよりの「お客さまご相談窓口」（別紙）にご相談ください。お客さまの希望により有料修理いたします。

この取扱説明書と本体に表示されている禁止事項・注意事項および通常使用に反して使用された場合の故障・事故は補償いたしません。

補修用性能部品の保有期間について

石油温風暖房機の補修用性能部品の保有期間は製造打切り後、7年です。

- 補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

転居される場合

- 電源周波数の異なった地域への転居でもそのままご使用いただけますが、高地への転居、高地からの転居は調整が必要ですので「お客さまご相談窓口」（別紙）にご相談ください。

アフターサービス

ご相談や修理は

家電製品についての全般的なご相談　三洋電機（株）お客さまセンター

受付時間：9：00〜18：30（365日）
総合相談窓口　050-3116-3434
※上記番号をご利用できない場合は
大阪（06）-6994-9570におかけください。

※郵便またはFAXでご相談される場合
三洋電機（株）お客さまセンター
〒570-8677　大阪府守口市京阪本通2-5-5
FAX：大阪（06）6994-9510

修理や部品に関するご相談は、お買い上げの販売店、または別紙の **修理相談窓口** にご依頼ください。

●故障修理を依頼されるときは

次の事項をご連絡ください
① 故障の状況
② 型式（CFF-L50G/L65G/L77G）
③ 製造番号（本体右側面のラベルに記入してあります）
④ お買い上げ年月日
⑤ おなまえ、おところ、電話番号

●お客さまメモ

アフターサービスのご連絡に便利です。

お買い上げ年月日　　　年　　月　　日
お買い上げ販売店 電話（　　）　　ー
担　当

お客さまご相談窓口におけるお客さまの個人情報のお取り扱いについて

お客さまご相談窓口でお受けした、お客さまのお名前、ご住所、お電話番号などの個人情報は適切に管理いたします。また、お客さまの同意がない限り、業務委託の場合および法令に基づき必要と判断される場合を除き、第三者への開示は行いません。

<利用目的>
- お客さまご相談窓口でお受けした個人情報は、商品・サービスに関わるご相談・お問合せおよび修理の対応のみを目的として用います。なお、この目的のために三洋電機（株）および関係会社で上記個人情報を利用することがあります。

<業務委託の場合>
- 上記目的の範囲内で対応業務を委託する場合、委託先に対しては当社と同等の個人情報保護を行わせるとともに、適切な管理・監督をいたします。

個人情報のお取り扱いについての詳細は、ホームページ http://www.sanyo.co.jpをご覧ください。

愛情点検

長年ご使用の石油温風暖房機の点検を！

こんな症状はありませんか	● 油もれがする ● 白煙が出たり、強いにおいがする ● 運転中、異常な音がする ● 何度も同じエラー表示が出る ● その他の異常や故障がある

使用中止	故障や事故の防止のため必ず販売店、またはもよりの「お客さまご相談窓口」（別紙）に点検をご相談ください。

※2シーズンに1回程度の定期点検を実施してください。

三洋電機株式会社
〒370-0596　群馬県邑楽郡大泉町坂田1丁目1番1号

この商品は海外では使用できません。（FOR USE IN JAPAN ONLY）

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

73164120348001